

自治医科大学消化器内科学教室同門会会報 (No.4)

第4回同門会が平成 15 年 9 月 7 日(日)ホテル東日本宇都宮に於いて開催されました。日曜日午後からの開催でしたが 70 名の会員が参加され、充実したセミナーと楽しい懇親会が行われました。以下にその概要をご報告いたします。

(1)同門会セミナー



セミナーの様子

1. 年度学位授与者の研究発表 司 会 内視鏡部助教授 井戸健一

石野祐三子 『内視鏡再生における洗浄と高水準の消毒方法の確立』
金子嘉成 『胃 MALT リンパ腫の除菌効果と遺伝子異常』

2. 教育講演 司 会 消化器内科講師 武藤弘行 『原発性胆汁性肝硬変における自然免疫と獲得免疫の役割について』 消化器内科病院助手 喜多宏人

3. 帰国後報告 司 会 消化器内科助教授 玉田喜一 『アメリカ発祥の地ボストンに留学して』 消化器内科病院助手 大橋 明

特別講演 司 会 消化器内科教授 菅野健太郎
『E 型肝炎ウイルス研究の現況』
自治医科大学感染・免疫学講座ウイルス学部門
教授 岡本宏明先生



岡本宏明先生

例年通り学位授与者の研究発表に加え、今回は喜多先生から PBC に関連して自然免疫と獲得免疫に関する教育講演、ハーバード大学留学から帰った大橋先生の帰国後報告がなされました。特別講演では、ウイルス肝炎研究の第一人者である岡本宏明先生が、E型肝炎の現況に関して非常に分かり易く御講演下さいました。E型肝炎は人畜共通感染症であり、ブタやペットなどが感染源となりうること、ブタのレバーには注意が必要であること、中でも北海道の共同研究施設で最近2年間に経験した散発性急性肝炎でE型肝炎が最も多かったという事実には驚かされました。とても勉強になった特別講演でした。

昨年は医局員の発表に於いて、演者のあまりの熱弁と尽きることのない討論のため大幅に予定時間をオーバーしたことの反省から、今回医局員には時間厳守を徹底したところ、ほぼプログラム通りに進行し、皆緊張感を持続して聴講することが出来たようです。

(2)同門会総会

昨年度会計報告の後、議案として以下の3点が検討されました。

1. 前会長の小山博誉先生の会長退任後の役付けに関して
2. 会則改定に関して
3. 同門会誌の発行に関して

小山先生においては、初代会長として同門会設立・発展に貢献して頂いた功績に対して、今後は名誉会長として同門会に助言して頂くことで会員の手承が得られました。これに伴い現名誉会長である菅野健太郎教授には、新たに設けた副会長として同門会に積極的に参加して頂くこととなりました。名誉会長の定義変更および副会長の新設に伴い、会則の改訂が必要となることから、幹事会より改定案を提示し承認されました。また、新会長である山中桓夫先生の発案により、同門会に出席できない会員にも同門会の現状が伝えられる内容で、来年度から同門会名簿に代わり同門会誌を発行することとなりました。また、会長より新たな幹事として前監査の木平健先生(緑の杜クリニック)と前事務局長の富山剛先生が推薦され、また歴代医局長経験者も同門会幹事として参加することで承認されました。

ほか、会則内の旧用語の変更(看護婦→看護師)、次回同門会の開催時期(9月第1土曜日)、内容(従来通りセミナー、総会、懇親会)についての説明

がなされました。

(3) 懇親会

懇親会に先立って記念撮影が行われました。

懇親会は会長の山中先生の挨拶、幹事の田中昌宏先生による乾杯で始まりました。会場は普段、結婚式に使用する部屋であり、アンティークな調度品が置かれた落ち着いた雰囲気の中で、円卓7個の各テーブルには概ね同世代の先生方に座って頂きました。途中、新入医局員2名と後期研修生5名が、各々スナップ写真のスライドとともに個性のある自己紹介を行いました。2時間の懇親会でしたが、今回は歓談の時間を多くとったことで、懐かしい会員同士、十分に話が出来たことと思います。日曜日にもかかわらず二次会の参加者も20名を超え、盛況の内に会を終了しました。



懇親会の様子

事務局より

事務局長交代後、最初の同門会であり、事務局として会員の皆様に不行き届きの点があったかもしれませんが、ひとまず同門会を無事に終えることが出来てホッとしております。これも一重に皆様のご協力の賜と感謝いたしております。今後、更に充実した同門会となるよう努力してまいります。お気づきの点やご意見がございましたら遠慮なくお申し付け下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成15年9月

自治医科大学消化器内科学教室同門会
事務局長 田野茂夫